

1	アリス「はあ……。またふられたあ……」
2	エリ「アリスさあ、やつと一日の学業が終わつたつていうのに、いつまで落ち込んでんのよ?」
3	アリス「だつてまだよ? 向こうから好きですつて言つてくんのに、じやあヤラせてつて言つたらどん引きして逃げてくんて!」
4	エリ「そりや告つてすぐにエツチさせろなんて言われたらどん引くに決まつてんでしょ」
5	アリス「なんなの? 百合が悪いってか?」

エリ 「お前が性欲の塊の男子中学生みたいな思考してるからだよ」

アリス 「だつてやりたいんだもん！ 可愛い女の子とならなおさ

ら！ それって普通でしょ？ セックスしたい！ セックス

う！」

エリ 「だーもおわかつたから。恥ずかしいから大声で卑猥なこと

言うなって」

9

エリ 「はあ。顔も頭もとびつきりよくて、おまけにシユートボク
シングの学生チャンプ。男子にも女子にも非常におモテにな
るのに……この性格だからなあアリスは」

14	13	12	11	10
<p>アリス 「あー、もう！ 今日こそ女の子とヤれるって思ったのに ！ ヤリたいヤリたーい！ ね、エリ、一発ヤラせて！」</p>	<p>アリス 「男子って何？ 股からチンコ生えてるアレ？ チンコじ やないや触手か？ そんなキモいの、相手にできるわけない っしょ！」</p>	<p>エリ 「大体の乙女は男子に目が向くんだって。ていうかさ、もう 男子と付き合つたら？ その方がうまくいくつて」</p>	<p>アリス 「だつてさ、男子とかあり得なくない？」</p>	<p>エリ 「しかも男子にまったく興味なし。女の子にしか愛情を感じ ないガチ百合……。そりや告ってきた女の子もビビるつて」</p>

エリ 「お前は誰でもエエんか！ 私は彼氏いるつづーの！ それにそつちの趣味ないし、興味もない」

アリス 「ううう、ちゃんと満足させてあげるのにー。」うなつた

ら帰つてオナニーしてやる！」

エリ 「えうしなよ。その方が世の中平和だから。じやあねー」

アリス 「はーあ、エリにもふられた……。こりやマジで今日もオ

ナニーコースだなあ……て、あれ？ 足がつかな——いきや
あああああッ！？」

※se0 .. ぴゅーん、どすんつ、という落とし穴に落
ちてお尻を打つたコミカルな音

15

16

17

18

20	21	22	19
<p>アリス 「……うえつ？ わ、笑ってる場合じやない！？ ここどこよ！？ 今まで私、街の中の道路歩いてたのに？ 落とし穴に落ちたら変なことに出た？ 立派な柱とかあるし、石の床とかだけど……どつかの宮殿？」</p>	<p>イリス 「ここは召喚の間です」</p>	<p>アリス 「誰っ！？ つて……うわあ、綺麗な子……。肌白いしお目々が青いし、お姫様みたい。ひよつとしてここ海外？」</p> <p>外国の美少女？」</p>	<p>アリス 「いててえ……お尻打つたあ。誰よつ、こんなとこに落とし穴掘つたの！ 落ちた私も私だけどつ。ひやつひやつ、笑える」</p>

26	25	24	23
アリス「そるあーす……？ 何それ聞いたことない。ソルトアイ スの仲間？」	イリス「私の名はイリス。訳あって、アリスさんをこの世界—— ソルアースへ召喚した者です」	アリス「あれ？ 私の名前、なんで知ってるの？ こんな美人に 名前覚えられるなんてつ、めっちゃ感動！ 愛が生まれた 瞬間だよ！ 一目惚れしました！ お嬢さん、お名前はなん ておっしゃるの？」	イリス「ふふ。ここは外国ではありませんよ、アリスさん」

31	30	29	28	27
イリス「はい。実は、アリスさんを召喚したのには、私達ヒト族の、勝手な事情からなのです」	アリス「魔法！？ うわつ、ますます異世界っぽいね。ほんとに私、異世界に呼び出されたんだ？」 △	イリス「その落とし穴こそ、アリスさんをここへ呼び出すために私が魔法で作ったもの」	アリス「異世界！？ 落とし穴に落ちたらそこは異世界だった！」 ？	イリス「ソルアースはあなた達で言う、異世界です」

35 イリス「けれど、他部族の中には好戦的だつたり、差別意識の高い種族も少なくありません。私達、平和を愛するヒト族としては、そういう部族に、頂点たる『ハーレムクイーン』になられては困るのです……」	34 イリス「戦いに勝ち抜き、優勝した部族は4年間、すべての部族の頂点に立つことができます。他の部族は、優勝した部族のいかなる命令にも服従しなくてはならないのです」	33 イリス「本当にですか！？ ここソルアースでは4年に1度、部族の代表者達によつて行われる『ハーレムバトル』という戦いがあるのです」	32 アリス「なあに？ なんか困つてゐるの？ イリスちゃんみたいな美少女が助けを求めてゐるなら、私はなんだつてしまふよ！」
---	---	--	--

39	38	37	36
アリス「はあ、スーパー・マンになるってわけね」	イリス「アリスさんでなければ、おそらく優勝するのは難しいと思います。アリスさんのような地球の人は、ソルアースにすることによって眠っていた潜在能力が目覚め、身体能力が地球にいた頃より爆発的に高まります」	アリス「そんな大事な大会なのに、出るのが私みたいなよそ者でいいの？」	イリス「平和な4年間を勝ち取るために、優勝しなくてはなりません。そこでアリスさんには、ヒト族の代表として大会に出てほしいのです」

43	42	41	40
アリス「ははーん、だから勇者になる私が喚ばれたってわけね」	イリス「それが、地球からソルアースへと召喚された勇者の力。 その能力がないと、ヒト族では他の部族にはかないません」	アリス「うつわ、すんごいチートだねそれ」	イリス「その上、特殊能力も、すでに体得しているはずです。戦 つた相手が負けを認めた際、相手の優れた能力をコピーして、 自分のものとする力。さらに、手にしたその力は、オリジナ ルの10倍の効果を持ちます。能力をストックしておける数 も、無制限です」

45	46	47	44
<p>イリス「はい。ですが私は、アリスさんなら、大会で優勝できると信じています。だからお願ひです。大会に出場して、ぜひともヒト族を部族の頂点に！」</p>	<p>アリス「突然呼び出しておいて身勝手だということはわかつた上でのお願ひです。もし、それをかなえてくださるのなら、アリスさんのいかなる願いもかなえましょう！」</p>	<p>アリス「なるほどなるほど。せつかく期待されて喚ばれたんだし、可愛いアリスちゃんのお願いだし、そういうことなら手伝つちやおつかな」</p>	<p>アリス「ねえねえ、私がほんとに優勝したらさ、アリスちゃんとエッチがしたいんだけど。そう言う願いでもいいわけ？」</p>

51 アリス「いいよん。私も、こっちでの自分の能力を確かめとく必要があるしね」	50 イリス「ああ！ あなたを喚んでよかつた、ありがとうございます！」 「ではまず、アリスさんの力を試させてもらつてもいいですか？」	49 アリス「うひょー！ それって勝てばやりたい放題ってこと！？」 「マジでハーレムクイーンじやん！ やつた！ やるよ私！」 「その大会に出て優勝しちゃおうじやないの！」	48 イリス「……えーと、エッチ……ですか？ 戦いに勝てば、対戦相手を自由にできる権利を得られますから、アリスさんが見事、ハーレムクイーンになつた暁には、すべての種族と好きなだけできますけど……」
--	--	--	---

イリス 「飲み込みが早くて助かります。では、こちらへ」

※S00..たくさんの人々が歓声を上げている音

アリス 「わー、すっごい人。シユートの試合のときより観客多い

し。でも、緊張はまったくなし。それよりあんな美人が相手
だなんて、わくわくしかしないよ！」

アリス 「背が高くて巨乳、それに褐色のお肌。卑猥なビキニア
ーマーに包まれた筋肉質な体付きが私好み！ 化粧つ氣とか
まつたくないのに、めっちゃ綺麗な顔立ちしてるし！」

アリス 「ああ、勝負に勝つたらあんな人と好きなだけセックスで
きるなんて！ まさにハーレム！ 私をソルアースに喚んで
くれてありがとう、イリスちゃん！」

55

54

53

52

ウルド「あたしはヒト族の戦士、ウルド。地球からやってきた勇者とやらの力、存分に味わわせてもらおう。——凍て付く刃ツ！！」

※se0 ..ぱきぱき!!物が瞬時に凍り付いた音

アリス「うつわ！ 剣が凍り付いて氷の剣に！？」

58 ウルド「武器に氷の魔法を付与できるのが、あたしの能力の一つ。さあ勇者アリス、行くぞ！ はああああ！！」

※se0 ..剣を連続して振り下ろしたり薙いだりする音

59 アリス「うわツ！？ ちよつ！？ くううツ！？ こつちは防具もないのに、あんな危ないもので攻撃するのもやつぱお構いなしつ。一撃でも食らつたら終わり。でも！」

※se0 .. 剣を連続して振り下ろしたり薙いだりする

音

ウルド「ふツ！ はあツ！ じゅした勇者、避けてばかりでは戦いにやえならないぞ！」

61

アリス「心配しなくとも今から攻撃開始だつて！ 元の世界で動くのと大違い！ それに相手の動きもはつきり見える！ 剣をギリギリでかわして—— ハハツ！ てやツ！！」

※se0 .. 繰り出したパンチが対象にヒットした音

62

ウルド「がツ！？ くふう！？ あたしより、速い！？ ふふふつ、これはいい！ もつと、もつと打つてこい！」

63

アリス「言われなくとも！ でい！ はツ！ たあツ！」

※se0 ..繰り出したパンチやキックが対象に連續で
ヒットした音

64

ウルド「うが！？ ンツ！？ ぐふウ！？ んんつ、あああ！
きたつ、きたア！ いいつ、イイつ！ その攻撃つ、気持ち
いい！ くあああンツ、痺れるウ！」

65

アリス「私の攻撃が効いてない！？ ていうか興奮してる！？
だからビキニアーマーなの！？ うはあつ、私好みの変態さ
んだ！」

66

ウルド「ハアハアツ！ もっと打つて！ あたしを痛め付けてえ
！ ああつ、氷の剣の冷気が肌に刺さつてえ……んんつ、そ
れまで感じるウ！」

67

アリス 「ウルドさん、あんな美人が、身体をいやらしくねらせ
て……！ 太腿をスリスリ、自分で擦《こす》り付けて……。
たつ、たまんない！ いっぱい苛めたくなる！ でりやあッ
！」

68

※se0 .. 繰り出したパンチやキックが対象に連続で
ヒットした音

ウルド 「はぐんッ！？ うつ、ぐふうん！ アリスの攻撃つ、く
ふあ！？ 最高だ！ こんなに感じるのつ、初めて！ 身体
がヒクヒクしてつ、震えが止まらない！」

69

アリス 「ウルドさんみたいな女戦士が、こんなにもドMだつたな
んて！ ああもうつ、私まで興奮して！ ダメだ……戦つて
る場合じやない！ 抱きたい！ エッチしたい！ 攻めまく

りたい！ ウルドさんっ、押し倒しちゃう！！」

※^{ses0} 人が地面に勢い良く倒れ込んだ音

70 ウルド「くああ！？ アリスっ、何を……！？」

71 アリス「寝技は専門外だけど……ほらウルドさんっ、四つん這いになりなさい！」

72 ウルド「あつぐう！？ ビキニパンツを脱がして！？ ぐあつ？
手を振り上げて……！？ そんな、まさか！」

73 アリス「ふふふ。ウルドさんの期待通りのこと、してあげる！
この引き締まった生尻を……ンツ！ ンン！」

※se0 .. お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

ウルド「ひぎやッ！？ が！？ あぐンッ！？ おー、お尻叩か
れたらつ、ぐひンッ！ 余計につ、気持ちよくなる……！
ひひンッ！」

75

アリス「ほんと、すつゞい感じてるみたいね。かなり強く叩いて
るからすつゞく痛いはずなのに、ああ、甘あい汗まで飛び
散らせて……！」

76

アリス「それに……すんすんつ。んああうつ。汗に混じつて、す
えた匂い……はああ！ これ、女の匂い……雌の匂いが、む
わんつて立ち上つてる……！」

77

ウルド「に、匂いの」ことは……、へうう、言わないでくれ…
…！」

アリス 「攻撃食らって感じてたくせに、匂いは恥ずかしいんだ…
…。ふふ。周りで見てる人達にも、ウルドさんの股から出る
淫らな匂い…匂がれてるよ」

78

ウルド 「そんな！？ あひんっ、大勢に見られて…匂いなんて
嗅がれてつ、恥ずかしいのにつ、んひイ！？ お尻叩かれて
…感じてつ、しまう！ ああンツ！」

79

アリス 「ふふふ。まだまだよつ。もつと感じさせてあげる！ ほ
ら！」

80

ウルド 「はひイツ！？ お尻叩きながらつ、アリスの指が股の間
に！？ あんん！？」

81

アリス「うわあ、卑猥なお口からぬるぬるした汁が垂れてきてる
！ ウルドさん、ほんとにいやらしい。クチュクチュいって
る……変態にもほどがあるよ」「

83

ウルド「だつ、ダメだ……！ くひあん！ そんなに音、鳴らし
たら……つ、んひイ！？ 周りに聞こえるう！」

84

アリス「ふふ。音聞かれるのも、恥ずかしくて興奮するのね。じ
やあ……いやらしいアソコの入り口に、指をすり付けて……
んん！ ぬちゅぬちゅ、ぐちゅ、ぐちゅつ」

85

ウルド「ぐひンッ！？ あっ、ああ！ 恥ずかしすぎるのにつ、
背筋がゾクゾクする！ アソコ擦《こす》られるたびにつ、
頭の中が痺れるくらい……快感が流れ込んでくるウ！？」

アリス 「まだまだなんだからっ。ほーら、今度はこの濡れ濡れの
穴に……指を入れてッ、くんん！」

86
ウルド 「ひぐいいンツ！？ そんなつ、いきなり一本まとめて入
れたら！？ くああ！？ 肉の穴の中、ぐいぐい広げられる

つ、くひイ！」

87
アリス 「広げるだけじやないよっ。うねうねして中の中の粘膜も、
擦《こす》つてあげる！ んつ、グリグリ、グリグリつて！」

88
ウルド 「ひつ、襞《ひだ》つ、搔き混ぜるのは……！ いひン！
ダメだ……ダメえ！ それ以上、したらア……！」

89

アリス 「気持ちよくなるだけでしょ！ ほら、お尻も叩いてあげるッ！ ふん！ ンンン！」

※seq0..お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

ウルド 「はぎンッ！？ うひイ！？ アソコの中いじりながら、

痛い！」とされたら……んぐイイ！？ 耐えられない！ ああ

ンッ、らめらア！」

ウルド 「はぎンッ！？ うひイ！？ アソコの中いじりながら、

痛い！」とされたら……んぐイイ！？ 耐えられない！ ああ

ンッ、らめらア！」

アリス 「ウルドさんみたいな綺麗な女騎士がここまで変態だなん

て。ああ、私も昂ぶって手が止まらない！ 攻めまくつ

て、イカせる！」

ウルド 「ひいい！？ お、大勢の人の前なのに、イカせる…
…のは……！」

ウルド 「ひいい！？ お、大勢の人の前なのに、イカせる…
…のは……！」

アリス 「絶対イカせる！ ウルドさんはただ感じてればいいのよ
！ 淫らなお口の中つ、グチョグチョ引っ搔いてあげるから
ツ！」

ウルド 「だつ、めら！ んんぐウ！ アソコつ、ズリズリ摩擦し
たら……ひゅぐぐン！」

アリス 「身体ブルブル震わせちゃつて。ウルドさんもイキたいん
でしょ？ 我慢せず、イツちやいなさい！」

ウルド 「ダメ！ らめえ！ いつ、イカせないで！ あンぐウ！
手、止めて……！」

97

96

95

94

アリス 「だくめ。ここ、摘んであげるから、いっぱいイツちやえ
！ ほらっ、キユウウツと！」

ウルド 「ひぎツ！？ そこつ、クリ……ツ！？ つつ、つつ、摘

み上げたらっ、んんぐ！？ 耐えられなっ、ひ……イクうう

うううツ！！」

アリス 「うわわ！？ ピュツピュツて潮噴いてる！？ 潮噴きつ
て初めて見た！ こんなにすごいんだ！」

ウルド 「きやああ！？ 見ないでくれえ！ お漏らししててみた
いでつ、ひひやあああツ！？」

101

100

99

98

アリス 「そう言いながらイツてるウルドさん可愛い！ ほらほら
つ、ウルドさんがお漏らししてるとこ、みんな見てるよ！
見られながらもつとイツて！」

ウルド 「はひイイイツ！？ 見られるの気持ちいい！ イクの止
まらない！？ 潮噴きながらいくいくウウウツ！！」

アリス 「あああつ！ 美人を抱けるつて最高！ 女の子をイカせ

るのつ、私もめちゃ気持ちいい！ んふうつ！」

ウルド 「うつ、ハア……！ ハアハアハツ、イツ……イカされた
あ……つ。あたしの、負けえ……です……つ。はああ……
」

105

104

103

102

※se0 .. 魔法を体得した音(エナジードレインして
身体に吸収したようなイメージ)

106

イリス 「勝負ありますね！ これでアリスさんはウルドの、痛み
を快樂に変える能力と、武器を氷属性にすることができる能
力を手に入れました」

107

※se0 .. たくさんの人々が歓声を上げている音

アリス 「ええ！？ エッチして勝つたのに……」んなに盛り上が
んの？ この世界じゃこれが常識つてことなんだ。てことは
めっちゃ私向きじやん！」

108

アリス 「ああ～つ。ようやく初体験、しかもウルドさんみたいな
美人を抱けたし！ これからも対戦相手をヒイヒイ言わせて
負かしてやるわ！」

※se1：鳥のさえずりなど、朝を連想させる音

109
アリス「んくくく、はあくくく！ おはよう。誰もいない

けど。ふう、イリスちゃんが用意してくれたお部屋もベッド
も快適だつた。よつし、ちょっと散歩でもしようかな」

110
アリス「うつはあ。見たことのある家が一つもない。全部石造

りのお家……。しかも車じやなくて馬車だし。なんかお金が
使われてないっぽくて物々交換してるし……。やっぱこいつ
て異世界なんだね」

111

アリス「それに……えつへ♪私を勇者様つて呼んでくれる村の人
達は、みんな美人ばつかだし。何ここ最高？ ハーレムクイ
ーンになる前からハーレムじやん！」

ウルド「あっ、おはようお姉様！」

アリス「ウルドさん、おはよう……て、お姉様？ 私の方が年下
だと思うんだけど……？」

ウルド「戦闘であたしを負かして、女としても、これまでにない

悦びを与えてくれたあなたを……お姉様と、呼びたいんだ：
…。ダメ、だろうか？」

アリス「うわあ！ 美人がちょっと目を逸らして恥じらいながら

とかつ、朝から破壊力抜群で、理性がぶつ飛びそうなんです
けど！ いいよいよ、ウルドさんの好きに呼んじやつて！」

ウルド「はああ！ ありがとう！ では、これからはお姉様と呼
ばせてもらおう」

116

115

114

113

112

アリス「年上からお姉様って呼ばれるのもいいもんだねえ。ちょ
つと興奮しちやう！」

ウルド「とこでお姉様、この集落の中をうろついていたようだ
が、何用だつたのか？」

アリス「ああ、異世界つてどんなとこかなつて見て回つてたの。
そうだウルドさん、この辺りを案内してくれない？」

ウルド「おやすいご用だ。ま、お姉様のいる地球と違つて、この
集落には見たままのものしかないがな。そうだ、あの祠には
案内しておこう。ついてきてくれ」

120

119

118

117

アリス「OK。この集落の周りって、ずっと草原が続いてるんだね」

ウルド「そうだ。家畜を飼うにはいいが、風が強すぎて農業がしにくい土地なんだ。おっと、見えてきた。あれが先ほど言つていた祠だ」

ウルド「この地には古い言い伝えがあつてな。数千年前、このソルアースに魔神が現れて、暴れ回つたらしい。世界は壊滅の危機に陥り、生きとし生けるものすべてが、生きるか死ぬかの瀬戸際にさらされた」

ウルド「そこで、普段は対立している部族が力を合わせ、多大な犠牲を出しながらも、魔神を撃破した。魔神の肉体は滅び、その魂はあの祠に封じ込められたと言わわれている。まあ、あくまで言い伝え、なのだがな」

121

122

123

124

128	127	126	125
アリス「おお！ ウルドさんがヤキモチやいてる！ 年上の美人女戦士なのに無性に可愛く思えちやうなあ～！」	ウルド「もう、お姉様！ 昨日あたしをあんなに好きにしておきながら、他の女……しかも他部族のことを気にかけるのか？」	アリス「あ、でもそうするとハーレムクイーンってシステムもなくなつて、私が他の部族の女の子とイチャヤイチャできなくなつたんだね。そのまま仲良くしてればいいのに」	アリス「へえ～、魔神かあ。その危機が去っちゃつたら、せつかく心が一つになつてた色々な部族も、また対立するようになつたんだね。そのまま仲良くしてればいいのに」

133 ウルド「ああっ、お姉様！ そんなに強く……抱き締められたら……！ はああ！」	132 アリス「こんな場所だからいいんじやん！ 外だし、誰もいないし……誰かくるかもって思つたら、燃えるでしょ！ えいっ」	131 ウルド「そ、そんなん。こんな場所で……つ、何を言つてている？」	130 アリス「可愛いよ！ 昨日だつて涙目になりながらよがつてたもん！ あれは今思い出してもたまんないよ！ ていうか、思い出したらむらむらしてきた！」	129 ウルド「か、可愛いなどと……つ、あたしのようにならぬには、似合わない言葉だ……」
---	--	--	--	---

アリス「ふふふ。ウルドさんだつて私に抱かれるの、待つてたで
しょ！ 可愛い！ ほんと可愛い！ もう押し倒しちやう、
おりやあツ！」

ウルド「きやはあ！？ お姉様！ ああンツ！」

アリス「ああうつ！ 朝っぱらからウルドさんみたいな美人を抱
けるなんてめっちゃ幸せ！ 異世界に召喚されてよかつた！
はああつ、ウルドさん、私、止まんないからね！ んちゅ
うう！」

イリス「ついに部族の頂点を決めるハーレムバトルが始まります。
準備はいいですかアリスさん」

137

136

135

134

142	141	140	139	138
アリス 「ううん、戦いやすさよりも、むしろちゃんと女の子なんか心配なんだけど……」	イリス 「そうです。スライム族はその肉体的構造上、捕まればとても厄介です。とにかく相手に捕まらないでください！」	アリス 「す、スライム？ スライムってあの、どろどろの？」	イリス 「ふふ。それくらいリラックスされてるのなら心配いらないですね。初戦の相手は、スライム族のサーラサーラという選手です」	アリス 「O.K！ いつでも、可愛い女の子を抱く準備はできるよん！」

146	145	144	143
アリス「んー、まあ、わかった。でもなあ、相手に近付いて捕ま えないことにはエッチできないしなあ……」	イリス「でもアリスさん、相手に不用意に近付かないでください ね。捕まつたら勝機が薄れてしましますから」	アリス「美人！ やた♪おっし、やる気出てきたぞ！ どうやつ て攻めてあげよっかなあ♪」	イリス「それは会えればわかりますけど、大丈夫だと保証します。 スライム族は身体はゲル状ですが、基本的にはヒト族と同じ 形態です。それにサーラサーラは、特に美人ですよ」

※S01..闘技場での試合開始の銅鑼の音

実況「さあ始まりました最強の部族を決めるハーレムバトル！」

まず相対するのは、ヒト族代表、地球の勇者アリス選手！

そして、ねつとりさんな肉体でおなじみ、スライム族代表の

サーラサーラ選手です！」

アリス「うわわ！ ほんとに身体がどろどろだ！ でもちゃんと

人の形してる。こんな人もいるってことは、やっぱここ、ま
ぎれもなく異世界だ……！」

149

アリス「それよりも！ イリスちゅんが言つてたとおりの美人さ
んだ！ ううん、想像以上！ モデルさんみたいなスタイル
してるし、気怠い系美女って感じ！ こんな人ともエッチで
きるなんて……異文化交流最高！ ジュるりっ」

148

147

サーラサーラ 「……なんか、よだれ垂らしてる？ ヒト族のくせに気持ち悪いな……。最初から酷いのに当たったかも。けど、私も代表に選ばれだし、仕方ないからやるか。ふツ！」

※se1 .. 弓矢の矢を放つた音

アリス 「うわ！？ 危なッ！ スライム族ってあんなことできんの！？ 身体が武器になるなんて！？」

実況 「サーラサーラ選手、自らの身体の一部を弓矢に変え、アリス選手に矢を放つております！ 対するアリス選手、これには防戦一方！ 避けるしか手がない！」

※se1 .. 弓矢の矢を放つた音※se1 .. 弓矢の矢を放つた音

152

151

150

アリス「ひあ！？ くあつと！？ 本物より遅いから避けられる！ これなら攻撃が当たる距離まで詰められる！ ふんん！」

サーラサーラ「へえ、さすが勇者。でもね、私の肉体は変幻自在。

飛び道具だけじゃないんだよ？ こんな風に——はツ！」

※se1 .. バチンッと鞭を振るつた音

アリス「うげ！？ 今度は鞭！？ きやあ！？ 速度はたいした

ことないけどつ、どつからくるのかわかんないし、意外に伸

びてくるから読みにくい！ くああ！？」

※se1 .. バチンッと鞭を振るつた音※se1 .. バチン

ツと鞭を振るつた音

実況「アリス選手、何度も繰り出される鞭を辛うじて避けており
ます！ しかし間合いを詰められない！ このまま鞭の餌食
になつてしまふのでしようか！」

156

155

154

153

アリス 「集中力が切れたらあの鞭を食らう！ じり貧になる前に
なんとか肉薄しなきや！」

サーラサーラ 「ちつ。なんて速さ！？ まさか鞭よりも速いなん
て！」

※se1 .. バチン焱と鞭を振るつた音

アリス 「紙一重で避けて！ もつときり突つ込む！ はあああ
！」

※se0 .. 繰り出したパンチが対象にヒットした音

サーラサーラ 「ふふんっ」

アリス 「なツ！？」

165	164	163	162
実況「アリス選手の攻撃がサーラサーラ選手にヒット！しかし スライム族にはただの物理攻撃は効果がありません！ 地球 から召喚されたヒト族の代表、こんなところで知識不足が出 てしまつた！」	アリス「くうう！？ どろどろが手に絡み付いてつ、逃げられな い！？」	サーラサーラ「捕まえた！」	

実況「サーラサーラ選手のゲル状の身体がアリス選手を絡め取つ
ていく！ 逃れることはできない！ こうなると始まるのは
つ、スライム族特有の能力、エナジードレインだ！」

アリス 「うつぐ！？ ああ……ツ！？ 身体から力がつ、勝手に抜けてく……ツ？ ゴボ！？ おぼぼぼ！？」

実況 「あーと！ アリス選手、完全にサーラサーラ選手の身体の中に取り込まれた！ 本格的に生命エネルギーを吸われるぞ、これはきつい！」

サーラサーラ 「さあて、生殖させてもらおうかな。好きでこんな大会出てるわけじゃないから、このくらいの楽しみがないとね。あ、窒息しないように顔だけは出しといてあげるよ」

アリス 「ぐは！？ はつ、ぐ！？ ゲホツ、ゲホ！ ハアハアツ！ きやああ！？ 服が脱がされツ、はぐ！？ あぐぐウ！」

169

168

167

166

サーラサーラ「いい肉付きしてるね。生殖のし甲斐があるよ。さあ、催淫効果のある私の体液を、あなたの身体に塗り込んであげる」

アリス「はひツ！？ ぐつひツ！？ なつ、何！？ 身体の芯が、

ジリジリ疼く！？ 身体中がつ、熱くなつて……！？ はああツ！？ やつ、やだ！ くあンツ！ 勝手に淫らな気分に……！？ ああつ、火照つて、ダメ……！」

サーラサーラ「ふふん。いつでも生殖できるように、私達の体液は即効性の媚薬成分が含まれてるんだ。みつちり味わわせてやるから、みつともなく発情するんだよ・

アリス「くひイン！？ ビロビロの身体がつ、肌に擦《こす》れるだけで……つ、くひあ！？ ビリビリつて、気持ちいいのが頭の中を直撃してくる！？ はぐぐ！？ うひ！？ ひひンツ！？ 今おっぱい……揉んだら！？ くひやあンツ！」

173	172	171	170
アリス「くひイン！？ ビロビロの身体がつ、肌に擦《こす》れるだけで……つ、くひあ！？ ビリビリつて、気持ちいいのが頭の中を直撃してくる！？ はぐぐ！？ うひ！？ ひひンツ！？ 今おっぱい……揉んだら！？ くひやあンツ！」	サーラサーラ「ふふん。いつでも生殖できるように、私達の体液は即効性の媚薬成分が含まれてるんだ。みつちり味わわせてやるから、みつともなく発情するんだよ・	アリス「はひツ！？ ぐつひツ！？ なつ、何！？ 身体の芯が、ジリジリ疼く！？ 身体中がつ、熱くなつて……！？ はああツ！？ やつ、やだ！ くあンツ！ 勝手に淫らな気分に……！？ ああつ、火照つて、ダメ……！」	サーラサーラ「いい肉付きしてるね。生殖のし甲斐があるよ。さあ、催淫効果のある私の体液を、あなたの身体に塗り込んであげる」

サーラサーラ「いい反応するね。ふふつ、揉みごたえのあるおっぱいだ。ほらつ、乳搾りみたいに、付け根から先っぽに向かつて……ギュウツ、ギュウウツと！」

174

アリス「はひ！？ いいンツ！ 他人におっぱい、揉みしだかれるのつて……こんなに気持ちいいの！？ んんつくう、オナニージや味わえない……！」

175

サーラサーラ「赤子を育てる母乳を出す、乳首も……クリクリツ、クリクリツと！」

176

アリス「あんんん！？ 乳首つ、こね回すのもつ、やめて……！自分で触るのとつ、段違い！ 力加減とか、全然違うからつ、すごくゾクゾクして……くふあん！・

177

サーラサーラ 「ふふ、体液もすっかり馴染んだようだね。それだけ感じてるなら、もういいかな?」

アリス 「何が、もういいって……ひツ！？ そつ、それ、何！？」

そのグロい形したやつ！」

サーラサーラ 「これがヒト族と生殖するときには最適な棒さ。こ

れをあんたの体内に挿入するんだ

アリス 「それってまじもんのセックスってやつじやん！ そんなのつ、嫌！ 男子から生えてるモノみたいなの入れられるなんてつ、嫌だよ！」

サーラサーラ 「心配ないよ。それだけ媚薬が効いてれば、気持ちよくなるだけだからッ！」

182

181

180

179

178

アリス「ゲル状の棒がつ、アソコの入り口に！？ ひぎッ！？
いッ！？ はつ、入ってないで！ んんぎイ！？」

サーラサーラ「おや、初めてだつたのかい。試合前に好色そうな
こと言つてたから、てつきり使い込んでるとばかり思つてた
よ。でも、これは生殖しがいがあるね！」

アリス「はぎインッ！？ サーラサーラちゃんの棒がつ、くつは

！？ 肉の穴の奥までつ、くる……！？ 処女膜、メリメリ
ツて破いてる！・

アリス「悔しくて……ぐふう！ 痛い、のに……！？ くひあ！
？ あつう、きつ、気持ちよさに……変換されてる！？ ウ
ルドさんからコピーした能力が発動して……ああん！ 気持
ちいいよお！」

サーラサーラ「生殖棒をアソコの奥に……んんんッ！」

187

186

185

184

183

191	190	189	188
<p>アリス「ぐいいいいんッ！？ スライムの棒つ膣内『なか』の壁、ゴリゴリ削つてる！ ふつぐいんッ！？ 奥にもつ、どんつどんつてぶつけられて……つ、ぐひは！？ 身体の芯にまで、響くう！ ものすごい快感が、込み上げてくる！？」</p>	<p>サーラサーラ「今度は動くよ！ いやらしい生殖穴の入り口から奥まで、出し入れする！」</p>	<p>アリス「痛いはずがつ、気持ちいいのはいいけど……つ、くはあ！？ いいけどお……！ 犯されるのつ、ダメ……ッ！」</p>	<p>アリス「いひッ！？ いつ、いいンッ！？ 中の肉つ、グリッグリッて擦『こす』られながら……ふぎゅい！？ 引き裂かれてる！？ くはつ、あああ！」</p>

サーラサーラ 「ほーら、ここつ。ヒト族の子供が宿るところ……ん！ 子宮だろ！ この入り口に生殖棒を叩き付ける！」

アリス 「んぎッ！？ ひぎギッ！？ それつ、ダメ！ 子宮口に
つ、生殖棒はめ込むのつ、きひやあ！？ そんなゴツゴツき
たらつ、感じすぎるからア！」

194

サーラサーラ 「感じすぎていいんだよ！ んつ、ン！ 気持ちよ
くなつて、私にその快感」と生命力を吸わせるのさ！」

195

アリス 「ふぐいいンッ！？ だつ、ダメ！ 男子みたいなグロい
棒で……セックスされてるのにつ、気持ちよくなりたくない
のに！ 攻められるのたまんない！」

200	199	198	197	196
アリス 「ひぎやあ！？ そつ、それえ……だつ、だああああ！？ ンンンンンッ！？ イクッ！ いやあああああッ！！」	サーラサーラ 「ここでつ、生殖棒を捻るッ！ グリッてね、くん ん！」	アリス 「ぐつっつはッ！？ ゲル状の棒つ、子宮口にずつぱり： …食い込んだ！？」	サーラサーラ 「そろそろとどめ！ 私も生殖させてもらうから！ ふんんッ！」	アリス 「赤ちゃん育てるとこ、乱暴に叩かれてつ、イひいいッ！ ？ 気持ちいッ！ 気持ちいひイ！ このつ、ままじや…… イッ……イ……ッ！」

アリス 「子宮口つ、卑猥な棒の先でグリンつてこそがれて……イク！ イツてるう！？ シンンいいいツ！？」

サーラサーラ 「あああつ、いいよ！ いやらしい肉穴がキュンキ

ュン締まって！ くはあ！ 私もつ、イイ！ もつとイツて

！」

アリス 「はひひインツ！？ イツてるときにつ、子宮の口い、グリグリしないでええええ！？ イキながらつ、イツちゃうから！ いひひイイインツ！」

サーラサーラ 「ああんつ、卑猥な穴の肉でつ、生殖棒がズリズリ擦られてる！？ ふああつ、アリスのアソコつ、なかなかの名器だね。これまで使つてなかつたのが勿体ないよ！」

204

203

202

201

208 アリス 「あうう……つ。そう、だ……。私、イリスちゃんとも……エッチしてないい……つ」	207 イリス 「アリスさん、しつかりして！ ここで負けたら、ハーレムクイーンにはなれませんよ！ エッチもできなくなります！」	206 アリス 「うつく！？ くつ、ハア！ ハアハアハアツ……イツひ……スライムの棒でえ……イカされたあ……つ。あうつ、はうう……ツ」	205 アリス 「こんなのがヤだ！ 私は抱かれるんじやなくて……女の子を抱きたいのに！ ふひつ、まだイク！？ ン~~~~ツ！」
--	--	--	--

イリス 「ウルドからコピーした、氷の能力を使ってください！
アリスさんの武器を、氷に変えて！」

210 サーラサーラ 「ふふん。悦楽の余韻に浸りながら何をしたって、
勝ち目なんてないよ」

211 アリス 「私の……武器い……？ 私の、武器は……拳……足……。

そう……そうだつ。私の武器は、この肉体そのものよ！」

※se0 ..ぱきぱきと物が瞬時に凍り付いた音

212 サーラサーラ 「何！？ アリスの身体が凍り付いて！？ 私の身
体まで凍て付……くああッ！？」

213 実況「あーと、アリス選手の突然の逆襲！ 自分の身体とともに サーラサーラ選手を氷漬けに！ スライム族は打撃は効きま せんが、こうした魔法にとても弱い！」	214 アリス「んんんッ！ だあッ！！」	215 ※se1..大きな氷の塊がバキッと砕け散った音	216 実況「アリス選手、自ら纏つた氷を碎いて生還！ 一方のサーラ サーラ選手、じろじろだつた肉体は完全に凍り付き、木つ端 微塵になつてしましました！ ここでサーラサーラ選手は戦 闘不能と見なし、アリス選手の勝利とします！」
---	-------------------------	--------------------------------	--

アリス 「うう、ああ……。どうう、しょ……！？ 私……相手つ、こつ、殺しちやつ、た……！？」

218 イリス 「それなら大丈夫です！ スライム族はこの程度では死にません。身体が溶ければ、また元通り一つになつて蘇生しますから」

219 アリス 「そ……そなんだつ。はああ……そならよかつた……」

「。いくら異世界にきたつて言つても、人殺しにはなりたくないしね。それにこんな可愛い女の子を自分の手にかけると

か、あり得ないし！」

※se0 .. 魔法を体得した音(エナジードレインして
身体に吸収したようなイメージ)

イリス「勝つたことでまた一つ、能力を得ましたね。今度はサー
ラサーラのエナジードレインです」

221

アリス「勝てたのはイリスちゃんのアドバイスのおかげだよ、あ
りがとね！ よかつたあ、負けなくて！ 女の子を抱くのは
これからだもんね！」

222

マツリ「ほほほ。なるほど。地球の勇者……なかなか面白そうで
すわね」

223

ライラ「へへっ、いいねえ。骨のありそなのが勝ち上がつてき
そうだ。この大会、ちょっとは楽しめそうだぜ」